

# 日本キリスト教連合会 会報



日本キリスト教連合会 委員長

土屋 潔 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 理事長)

## 神の子どももついでに

宗教者の働きは、すべての人が幸福に人生を送ること、即ち、平和を願い求め、時には身を挺して実現へと導くことと考えます。

今年2月末に、大国の一方的大義のゆえに、ウクライナ戦争が始まり、現在に至っています。その状況下で、なぜウクライナ人は命を懸けてまで大国と戦うのか？という声が起こり、それに対して、ウクライナの指導者の一人がインタビューに答えて「かつて祖国は大国によって蹂躪され、自立を阻まれてきた歴史があった。ここでその悲劇を繰り返してはならず、血を流してでも祖国を守る必要がある。自由とは血を代償としてこそ得られるもの」と語っています。主イエス様がご自分の民・ご自分の国を守るために自ら命を賭して、私たちに自由と解放をもたらされたことを重ね合わせるができます。

「平和をつくる者は幸いです。」

その人たちは神の子どもと呼ばれるから。」

(マタイ五章9節)

さて、8月4日に「第35回比叡山宗教サミット」が京都で開催される予定であり、私は、歴代の連合会委員長が果たしてこられた関わり方を踏襲させていただきます。日宗連の理事として宗派別の祈祷では僭越ながら皆様を代表して祈らせていただきます。

この宗教サミットには、本連合会の諸先輩のご努力によって立場と役割が確立され、評価されてきました。昭和62年8月に比叡山宗教サミット第一回が開催されて、16か国24代表が出席しました。日本キリスト教連合会からも、枢機卿であり日本カトリック司教協議会会長であった故・白柳誠一師が代表として臨まれたのです(同師は2009年12月に帰天、81歳)。以来、本連合会はキリスト教界の枠を超えて、真の平和を心から願い祈ってきました。その第一回サミットで、アッシジ代表のミッチー神父は「罪のない人までが大きな代償を支払ったのは悲劇だ。悲惨な戦争をなくすには人種、宗派を超えた親善協力が必要」と訴えていました。

今の時代が内包している問題は、多面的な事象であります。その根源は人間の原罪に深く関わって来るものです。平和をつくりだすには、主の愛による赦しが必要であると同時に、キリスト者の仲立ちが求められます。

そのためにも、改めて自らの救いを深めながら、救いがすべての人々に及び、大国の大義がまかり通るのではなく、真の隣人として赦し合い、喜び合える関係が築かれていきますように、ともに祈っていきたく思います。



# COVID-19下での悲嘆とそのケア

講演 大柴譲治先生（日本福音ルーテル教会 議長）

大柴譲治先生は大阪教会の牧師。四条畷市にある社会福祉法人うるうてるホームの理事長・チャプレンを兼務。専門は実践神学における牧会学および臨床牧会教育(CPE)。ルーテル学院大学、神学校等で牧会カウンセリングのクラスを担当。

初めに八木重吉の詩をご紹介します。「このかなしみをひとつに統ぶる 力はないか」。彼は序文にこう記します。「私は、友が無くては、耐へられぬのです。……私を、あなたの友にしてください。」COVID-19のもとで、教会は大幅な制約を受けました。教会での交わりや病床訪問もできない中を通ってきました。東日本大震災でもそうでしたが、いま私たち宗教者はそのあり方を問われているように思います。悲しむ人たちの嘆きを共に担い、寄り添って生きることができているだろうか。

ルターは詩篇をキリストご自身の祈りと位置づけています。その詩篇は全体の40%が嘆きの詩篇です。嘆くことは大切なことです。同時に嘆く相手を持つていること、受け止めてくれる人がいることも重要です。ヨブ記の辛いところは誰にも受け止めてもらえなかったことです。一方、聖書には繰り返し「深い憐れみ」という言葉が出てきます。良きサマリア人や放蕩息子のたとえで述べられています。「深い憐れみ」の原語の意味は、はらわたがよじれるほどの痛みをもって人の悲しみを体の中心で受け止める、ことです。私はこのような共感的な受容と傾聴をライフワークと考えてきました。ありのままの私たちを受け止めてくださる主こそが、私たちが模範とすべきお方です。

最近「レジリエンス」という言葉を聞くようになりました。元々はバネの復元力を言うのですが、そこから回復力、逆境力、折れない力、心の免疫力という意味で使われるようになってきました。それが危機的体験によるPTSDなどか

ら守られる復元力になります。そのための3つの要因があります。①明るい性格を持つこと。②気持ちを聴いてくれる友を持つこと。③温かい共同体に加わること。

ユダヤ人精神科医としてナチスの強制収容所を体験したヴィクトール・フランクルは解放後に『夜と霧』を著しています。極限的な体験の中で、意味を見出し得ない不条理と苦難を耐え抜く力の秘訣を語っています。それは希望と人生の意味です。それが人を絶望から救い、生かすものとなります。私たちは、人生に生きる意味があるのかと問うのではなく、人生の方から私たちに、人生にどのような意味を見出すのか問われていると、フランクルは語りかけます。生きる意味が分かると、それが希望になるといいます。

3月にポーリン・ボス著『あまいな喪失と家族のレジリエンス』をテーマに福島医学会主催の講演会がありました。柳田邦男さんが講師でした。東日本大震災でご遺体が見つからず宙に浮いたままの喪失を経験されたご家族の悲しみが取り上げられました。そこには、しなやかでげんげない、折れてしまわない強靱なレジリエンスがありました。そうしたたたかさはペヌエルのヤコブに見ることができます。彼は勝ちはじめませんが、負けることもなかったのです。北海道開拓の村にある記念館でひとつのエピソードを聞きました。明治初期、酷寒の地で最後まで耐えた開拓団にクリスチャンの赤心社がありました。耐えられた理由は自分の外に自分を支えるお方を持っていたことだったそうです。それが八木重吉の詩にある秘訣の答えでもあったのです。

# 2022年 日本キリスト教連合会 総会報告

事務局担当 滝田浩之（日本福音ルーテル教会）

新型コロナウイルスの影響で、日本キリスト教連合会の総会は2年続けて「書面決議」での開催となりました。所属頂いている、諸教会の皆様のご協力を感謝申し上げます。

「書面決議」ではありませんが、2022年4月21日（木）午前9時半から常任委員の先生方にZoomで参集頂き、事前に集めておりました委任状の確認、また議案等に対するご質問、ご意見を確認いたしました。またオリンピック、パラリンピックではチャプレンの働きを任されていたので、その報告も分かち合ったことでした。今年は、特にご質問、ご意見はなく、報告を含めたすべての議案が承認されたことをご報告いたします。常任委員会のメンバーで総会の確認を行った後、たくさんの方々が委員長である大柴譲治先生のご講演にZoomにて参加頂いたこと、併せて感謝申し上げます。

5月1日からは、2年間の任期で事務局が日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団になることを確認し閉会したところでした。来年こそは何とか対面での総会開催が行われて欲しいと願っております。

さて、今年度の日本キリスト教連合会主催の「法人事務会計実務研修会」は、昨年度の皆様から頂いたアンケートのご意見もあり、引き続き、Zoomにて開催されることを確認しました。また学びの時間も、法人事務、会計実務ともに、それぞれ2コマ実施することとし、内容を充実させていくことになりました。多くの方々から参加頂けますようにご予定頂きますと幸いです。



## 日本キリスト教連合会主催 法人事務会計実務 研修会 開催の ご案内 (Zoomで)



日時：2022年10月19日（水）／20日（木）

法人事務＝19日（水）午前10時～午後3時10分 担当：櫻井園郎先生

会計実務＝20日（木）午前10時～午後3時10分 担当：長岡淳三先生、長岡正先生

昨年は初めての試みでしたが、Zoomを用いて研修会を開催しました。箱根での開催と違って、礼拝も交わり、楽しい食事もない味気ない研修会になるのではと心配していましたが、参加された皆さまの熱意のお陰で、とても充実した研修会になりました。昨年のアンケートにあったご要望にお応えするため、プログラムの充実を図りました。講師の先生方にはご負担をおかけすることになりますが、講義時間を大幅に増やし、内容も皆さまの普段のお働きに益するように心がけました。Zoomで行いますので、全国どこからでも気軽にご参加いただけます。事前のご質問もお受けします。ぜひ、第46回 法人事務・会計実務研修会にご参加ください。

法人事務・会計実務の参加費は、一コースお一人1,000円です。申し込み方法などは、別刷りのパンフレットをご参照ください。参加のお問合せは、日本キリスト教連合会事務局（日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団）をお願いします。電話：03（3918）5935、担当：笠原。参加申込は [y.kasahala@ag-j.or.jp](mailto:y.kasahala@ag-j.or.jp) にメールで。



# 日本キリスト教連合会 News



## 日本キリスト教連合会としての取り組み

多くの懸念材料のある中で、信教の自由と平和を守るため、何よりも主の栄光が現されるため、活動します。

21世紀がこんなにもたいへんな時代になるとは、想像もできませんでした。被造物のすべてが共にうめき、苦しんでいるのを日々目の当たりにしています。現代にあって、平和を実現する教会となるために、互いに心を合わせ、祈りを合わせたいと思います。

## 日本キリスト教連合会のホームページがリニューアルされました!

ずっと課題だった(どこでもそうですが)ホームページを思い切ってリニューアルしました。今後はコンテンツの充実を図っていきたいと思います。取りあえずは、秋の研修会

の案内をHPで見られるようにと願っています。今後は会報や、さまざまなイベントのご案内なども掲載予定です。ご期待ください。  
<https://jccc21.com> から閲覧ができます。

## 編集後記

コロナ感染の第七波が驚くような拡がりを見せています。感染者数は世界最多だとのことです。夏のさまざまな行事にも影響が出ています。ガックリというか、気持ちも落ち込みます。パウ

ロにそうして下さったように、「気落ちした者を慰めてくださる」神さまに依り頼み、大柴先生の講演にある「レジリエンス」を高めて行きたいと思います。厳しい暑さが続きますが、お元気で過ごしてください。(編集担当 矢木良雄)

## ●日本キリスト教連合会役員(2021年度)

- 委員長 土屋 潔 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)
- 副委員長 滝田浩之 (日本福音ルーテル教会)
- 常任委員 中村幸嗣 (日本バプテスト連盟)
- 道家紀一 (日本基督教団)
- 矢萩新一 (日本聖公会)
- 江原慶亮 (日本同盟基督教団)
- 本田勝宏 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)
- 川口 薫 (カトリック中央協議会)
- 矢木良雄 (イムマヌエル綜合伝道団)

## ▶日本キリスト教連合会の主な活動

- ・年6回の常任委員会  
4月、5月、7月、9月、11月、2月(変更あり)
- ・年2回の定例会(例年は2月と9月に開催)
- ・法人事務・会計実務研修会(秋に開催します)
- ・「会報」を随時発行し、情報をお届けします

\*日本キリスト教連合会へのお問い合わせは  
170-0003  
東京都豊島区駒込3-15-20 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団内「日本キリスト教連合会」へ。

